



**第 2 号**

発行 福島県立ふたば未来学園高等学校  
保護者と教師の会

所在地 〒979-0403  
福島県双葉郡広野町大字下浅見川  
字架池12

編集 PTA調査広報委員会

印刷 八幡印刷株式会社




# 双来祭

◆◆◆「未来創造セミ」学習発表会◆◆◆

11月3日(火)祝

ふたば未来学園高等学校



**校長挨拶**

保護者の皆様、本校教員活動に対する御理解と御協力に厚く御礼を申し上げます。

本校では、まさに前例のない学習に、生徒、教職員が挑戦し続ける最初の一年が終わろうとしています。入学式の式辞でもお話ししたように、ここ双葉郡、福島県では多くのものを失ったからこそ、他の地域ではできないような、野心的で未来を先取りするような新たな挑戦が可能になっています。生徒たちは、新しい生き方や社会の創造を目指して、現実社会の中で学ぶ「未来創造型学習」に取り組んできました。その成果を披露する機会として、昨年の秋に、「双来祭」「未来創造セミ」学習発表会を開催しました。ドラマの力、祭りの力、アートの力、スポーツの力と調し、地域が直面する様々な課題に挑戦すべく、これまでになかった作品やイベント、スポーツを創造することができました。

本校での生徒たちの学びは、自分たちで完結するものではなく、地域と共に、世界と共にあります。五十年、百年受け継がれるであろう伝統の始まりです。

# 三島長陵校舎

新しく建設中の「時之栖苑島グラウンド」  
富士山がきれいに見える絶景の  
サッカーグラウンドです。



高円宮杯U-18サッカーリーグ2015  
プレミアリーグEAST 第10位

高円宮杯U-18サッカーリーグ2015  
静岡・スルガカップBリーグ 第3位

現在 ジャパンユース プーマスーパーリーグ戦

2015プレナスチャレンジリーグWEST

第3位

第37回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会

出場



1月6日  
三島大社へ初詣  
必勝祈願

大社



11月14日  
長陵祭に参加

A組 加藤智大

三島長陵校舎の学校生活について紹介します。9月に富岡高校と合同で富士急ハイランドに遠足に行きました。11月には三島長陵高校の文化祭「長陵祭」に参加し、全員で合唱したり、模擬店で焼きそばを作ったりしてとても楽しかったです。そして12月から1月にかけての「産業社会と人間」の授業では、JFAアカデミーのスタッフと高校三年生にインタビューをしました。スタッフからはこれまでの進路や経歴について、先輩からは大学進学・プロ入団・海外留学についてなど、今後に役立つことを聞くことができ、とても参考になりました。1年間いろいろなことがありましたが、多くのことを学ぶことができました。2年生になっても頑張りたいと思います。



1月29日  
今年度初 ALTによる授業

サッカーを応用したゲームなど、90分間英語のみで楽しくアクティビティ!



1月20日  
『先輩と語ろう』  
(進路研究)

富岡高校の先輩から進路についてのアドバイスをもらいました。



9月29日  
遠足で富士急へ

## FUJI-Q



### 部活動の結果

#### ◇バドミントン部

福島県高等学校新人体育大会

<団体戦>男子優勝

女子優勝

<個人戦>男子ダブルス

2位 金子真大・久保田友之祐

3位 佐藤雄輝(富岡2年)・筑後恵太

5位 久場圭祐(富岡2年)・山田尚輝

女子ダブルス

2位 由良なぎさ・永井謙寿

3位 高橋明日香・齋藤真琴

男子シングルス

優勝 金子

5位 山田 筑後 久保田

女子 シングルス

優勝 高橋

3位 由良 永井

全国高等学校選抜大会東北地区予選会

<団体戦>男子 優勝 全国大会出場

女子 2位 全国大会出場

<個人戦>男子ダブルス

優勝 金子・久保田 全国大会出場

男子シングルス 2位 金子

女子シングルス 2位 高橋



高橋明日香 2016年ナショナルチームB代表 選出

## 猪苗代校舎

12月11日

「産業社会と人間」発表会



出身地区について学習し、地元の偉人について調べたことを発表しました。



福島大学の白石豊先生より講義をいただきました。

9月28日

メンタルトレーニング講座



10月23日

猪苗代高校の体育祭



8月 高上 麟龍

10月23日、さわやかな秋晴れ。猪苗代高校の体育祭に、富岡・ふたば未来学園合同チームで参加しました。借り物競争、大玉転がし、リレー、騎馬戦、綱引きなど、たくさんの種目に参加しました。富岡・ふたば未来学園合同チームは息の合ったチーム力を発揮し、見事総合優勝することができました。○×クイズで最後まで残った友だちの姿が心に残っています。また一つ、大切な思い出ができました。お昼ご飯の時には、猪苗代高校の保護者の方に豚汁を作ってくださいました。とても美味しかったです。猪苗代高校の皆様、ありがとうございました。

元気いっぱい汗を流しました。

見よ! この楽しそうな笑顔。

# 祭りの力

お祭りと言えば、ワクワクドキドキするもの、そして、立場や考え方の違う者同士がひとつになる日。新しい祭りを創り、その力で会場を盛り上げるという目標を達成するため、まずは『俺らの祭り 10ヶ条』を作成！当日は自分たちで発案した歌や踊りで来場者を巻き込み、双葉郡8町村の名物が詰まったオリジナルのたこ焼き『ふたば』を無料で配布しました。生徒たちの双葉郡を愛する熱い思いが伝わり、会場にいる人が一体となって踊った姿は圧巻です。見事、皆を笑顔にする楽しい祭りを作り上げました。

3期 伊東庄司

先の見えない状態での開始で大変だったが、応援団の方のご助力により、本番は祭りの力で地域の方とともに楽しむことができました。それが一番の成功だと思います。

1期 猪狩一成

最初はどんなことをし、どんな祭りをつくるのかわからなかったが、応援団の方のアドバイスをを受け、皆が祭りに込める熱い気持ちがあって成功することができたと思います。



ふたばたこ焼きで会場は一体感に包まれました。▶▶



俺らの祭り 10ヶ条

- 俺らの祭りは、熱くなれ
- 俺らの祭りは、自分らしく
- 俺らの祭りは、地味の人を巻き込む
- 俺らの祭りは、楽しもうぜ
- 俺らの祭りは、前例のないオリジナル
- 俺らの祭りは、さらけ出せ
- 俺らの祭りは、笑顔
- 俺らの祭りは、ワクワク、ドキドキ
- 俺らの祭りは、みんなをびっくり
- 俺らの祭りは、思い出に残る



応援団 講師

●フリエイティブディレクター 箭内道彦 氏

# 又來祭

11月3日  
火・祝 本校舎

# スポーツの力

目指したのは新しいスポーツを創ること！誰もが楽しめるスポーツ、アンフェアにならないスポーツについて考えました。ルールとは何かを知ることで、既存の枠内だけで考えるのではなく、俯瞰して考える視点を学びました。そして完成したのは、ペットボトルでボールを打ちゴールに入れる「ペットホッケー」です。シンプルかつ、年齢に関係なく誰でも楽しむことができるスポーツで、当日は多くの来場者が参加し、笑顔を見せていました。

2期 新妻竜輝

今回スポーツの力に参加して、積極性を身につけることができました。今後は「積極的にやりたいことをやる」という姿勢を大切にしていきたいです。

3期 野口和哉

今回、場を盛り上げたり、人を楽しませたりする方法について学ぶことができました。今後は、目標と期限をはっきりさせ、積極的に行動し、周りに働きかけたいと思います。



▲美女(?) による笑況



▶▶ 午前間わず多くの来場者が観戦！ 高900 時間をかけて制作した渾身のCMが出来ないバウンスも製作。



▲赤木さん、お本屋さん、お眼鏡屋さんの名前が知られる美人のこのおさんが発案して盛り上げてくれました。



応援団 講師

●一般社団法人 アスリートソサエティ 代表理事

為末 大氏

# ドラマの力

21名の生徒が演劇制作に挑戦。演出、脚本、役者、舞台など、そのすべてを一から創り上げました。上演する演目は、名作「ロミオとジュリエット」をもとにした、オリジナルのストーリーです！「観客の心を動かしたい」という熱い思いのもとに一致団結して完成させた舞台は、大成功でした。



▲ 21人全員に大切な役目がありました。かけがえのない仲間！



応援団 講師

●東京藝術大学 特任教授 平田オリザ氏

プロローグ みなさんが知っている赤ずきんとオオカミの物語はあれて終わってはいなかった。その長きに渡る冒険、そして… 勇剣を日の当たりにする2人の若い男女。切ない恋の物語、開幕。

2.20 遠藤一成  
全員が自分から動き、全体で楽しむことができ、演劇の魅力に気づきました。今後の活動では、何事も楽しみながら取り組み、今回学んだことを活かしたいと思います。

3.20 佐藤美羽  
脚本・演出を担当し、人に指示を出すのはとても大変でした。応援団の方に、舞台の転換など、自分たちでは気づかなかったことを教えてもらい、要所で意見を出示してもらったからこそ今回の劇を無事成功させることができたのだと思います。

# いざ開幕!



# アートの力

東京藝術大学の先生方によるご指導のもと、6つのグループに分かれ、それぞれの未来に繋げたい思いを込めた陶板づくりに挑戦！陶芸を行う際に必要となるのは大地を形成する土、人々のエネルギーの源である火や水……。こうした自然の圧倒的エネルギーと神秘的な力を感じながら、見事に色鮮やかな6つの作品を作り上げました。



色鮮やかな作品に仕上がりました。



▲ 先生方に作品を見せるために一階のホールまで。

4.20 山田智紀  
朝早くから夜遅くまで講師の先生方に準備をしていただき、そのおかげで減多にできない貴重な体験をすることができました。多くのことを学べたと思うのでこの経験を今後につなげていきたいです。

1.20 五十嵐早紀  
陶芸という言葉は日常でもあまり聞くことがなく、実際やってみると難しかったです。しかし、班で力を合わせ、完成したときにはとても達成感がありました。知識と技術を教えてくださいました講師の先生方に感謝しています。



応援団 講師

●東京藝術大学 学長 宮田亮平氏

## 双来祭を終えて ● P T A 会長 根本みゆき

早いもので、入学してから9か月が過ぎ、入学式にはあどけなさも残り、緊張していた子供達の顔もすっかり大人になり、学校生活にも慣れてきたように思います。他校では体験することのない様々な授業を体験し、11月には「双来祭」も盛大に行われました。講師の先生方の多大なる指導の下、大きな力を出し切ることが出来たと思います。地域の方々や保護者など多くの方々の参加を頂き、楽しさを共感できました。部活動・有志による発表では、男子の繊細かつ力強いピアノ演奏や、女子のバンド演奏も印象的でした。また、みらいカフェでは、おいしいケーキと温かい飲み物でほっこりするなど、心温まる双来祭となりました。

本校舎 部活動の活躍!

# レスリング部



現在、部員は3名です。来年は新入生も加えて団体戦に出場し、東北大会を目指します。

- 福島県高校新人大会 66kg級 第2位 近野雄一郎 東北大会出場権獲得
- 一年生大会 66kg級 第1位 近野雄一郎 84kg級 第2位 小松 雄真
- 全日本ジュニア選手権大会東北ブロック予選 63kg級 第5位 近野雄一郎 全日本ジュニア選手権大会出場権獲得 (4月22日~24日 横浜文化体育館にておこなわれます)



# 女子サッカー部



富岡高校と合同チームで出場しています。新人大会では、富岡の三年生が引退し、8名での戦いになりましたが、全勝で優勝を勝ち取ることができました。

- 第29回全日本女子サッカー選手権 県大会 優勝 東北大会出場
- 第37回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会 東北地域大会 出場
- 第24回全日本高校女子サッカー選手権 県大会 優勝
- 第24回全日本高校女子サッカー選手権 東北地区大会 二回戦敗退
- 県高校新人大会女子サッカー競技 優勝



# 剣道部

毎日体育館や格技場で練習を行っています。体力作りのため、筋トレもしています。

- 県高校選抜剣道大会相双支部大会 男子個人部の部 第3位 太田 慎慎



# 野球部

部員13名で、Y&Mならばスタジアムと広野総合グラウンドで練習しています。次年度に向けて、日々の練習に励んでいます。

- 秋季高校野球県大会相双支部大会出場
- 高校選手権福島大会相双支部大会出場



# 男子サッカー部

日々成長を続けて次年度は上のステージへ上がり、より多くの経験が積めるように頑張ります。

- 第94回全国高校サッカー選手権大会 福島県大会出場
- 県高校新人体育大会サッカー競技相双地区大会出場
- 高円宮杯 U-18サッカーリーグ福島県リーグ参入戦出場



# ソフトテニス部

部員12名で、この冬を越え、新年度インターハイ予選で良い成績を残せるよう日々の練習を大切にしていきたいと思います。また、人間性を高め、応援される部になれるよう努力していきます！

- 第68回県総合体育大会出場 木村知宙・高橋涼花組
- 県高等学校新人体育大会出場 男子団体
- 県ソフトテニスインドア選手権大会出場 高野 遼斗・山田 弘樹 組



# 卓球部

男女7名で和気満々と活動しています。高校から始めた部員も強い打球が打てるようになり、個人戦で県大会に進む人数が増えました。次年度は団体で県大会出場を目標にします。

- 県高校体育大会 男子シングルス出場 石田大地
- 県総合体育大会 男子シングルス出場 石田大地
- 県卓球選手権 男子ダブルス出場 石田大地・鈴木誠史
- 県高校新人体育大会 男女シングルス出場 土屋 昌/高木美里



# 陸上競技部

部員12名で活動しています。各種大会に参加し、毎日の練習にも精進しました。

- 福島駅伝 2区 速藤健次 出場 5区 根本 翔 出場
- 広野ふるさとふれあいマラソン 第5位



# 演劇同好会

会員7名で、元気に活動しています。初心者ばかりなので、「表現」に慣れるための基礎練習を中心に、春の「校内ミニ公演」の準備をしています。

- 相双地区高校演劇コンクール 創作脚本賞



# 社会起業部

ひろのサマーフェスティバルに出店したり、来校した東北大学留学生や島根県立隠岐島前高校と交流したりしました。また、広野町国際フォーラムや、再生可能エネルギー教育成果発表会における意見発表、双葉祭での「みらいカフェ」出店など様々な活動を行ってきました。



# 音楽部

部員は9名で、毎日活動しています。

- 相双地区高校前期音楽学習発表会 参加
- ひろのサマーフェスティバル 参加
- ひろの童謡まつり 参加
- 相双地区高校後期音楽学習発表会 参加



# 美術部

現在部員は7名です。毎日放課後、美術室で活動しています。

- 越後妻有「大地の芸術祭」参加
- 広野町文化展 油絵出品
- 第41回県高等学校美術展 油絵出品





# ベラルーシ研修

2015.7.28-8.7



スプリョーノク(宿泊施設)にて



浴衣に着替えてよさこい披露



会社見学を終えて移動中に



英語劇を発表

「福島こどもの未来を考える会」が主催したベラルーシ研修に県内の中高生 50 名が参加し、本校からも、7 名が参加しました。現地では、福島の実状について発表したり、放射性物質検査機製造会社を見学したりしました。また、よさこい踊りを披露したり、折り紙を教えたり、文化交流も行いました。

国立リハビリセンター訪問では、「産業社会と人間」の授業で作った劇を英語で披露しました。この劇では、故郷に戻れない人々の怒りや鬱鬱を表現し、参加した他の高校生や地元の人にも高い評価をいただきました。

生徒たちは原発事故という同じ経験をもつ国との交流を通じ、現状を理解することや、情報を発信し続けることの大切さを実感しました。

## 海外研修

～今年も 3 か国へ～



# タイ・ドイツ研修

2016.1.5-1.10



ヴォーバン団地にて



記念の桜の木を植樹



大使館にて



学生とのワークショップ



エコステーション訪問



本田慎之介さんと

市民団体エコステーションの方々に、福島の現状を発表し、集まった高校生・大学生とディスカッションをしました。この研修で生徒たちは二年次以降に取り組む課題研究についての意識を高めることが出来ました。そして事前研究で考えていた環境政策プランについても、日本の環境や文化を考慮して練り直すことと意欲を燃やしています。

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

ハイデルベルク市と環境都市として有名なフライブルク市にホームステイしながら、本校生 9 名が研修を行いました。ハイデルベルクの環境政策を学ぶための分業が徹底されている様子に感心しました。また、フライブルク市では、環境政策について元環境局長責任者ウエルナー博士の講演を聴きました。その後エコタウンヴォーバン団地のパツシブハウス(エネルギー消費を極力抑えた住宅)やランドウアツァー居住区のバイオマス発電やネッカー川の小水力発電、パーク&ライドシステムを視察しました。また、

本校生 14 名が、3 泊のホームステイを含む 6 日間タイでの研修を行いました。日本大使館訪問で、福島の現状についてプレゼンを行いました。両国の友好関係について講義を受け、ASEAN と日本の関係が益々強くなることを実感しました。チユラロンコン大学の学生とワークショップを行いました。大震災については知っていても原発事故については知られていなかったことに驚き、正しい情報を発信し続けることの大切さを感じました。

また、新エネルギー・産業技術開発機構の古川氏から、スマートコミュニティ実現に向けた課題と取り組みについての講義をいただきました。他には、富岡高校出身の元 Jリーガー本田慎之介さんとお会いしたり、現地で活躍する若い日本人ビジネススマンと交流したり、有意義な時間を過ごすことができました。

研修を通して、ティスカツシヨンのための幅広い知識や英語力の必要性を痛感し、今後の目標を新たにしました。

# FOCUS ふたば未来 第2回

## 生徒会発足!



今回は生徒会の活動について紹介します。9月25日、本校で初めての「生徒会役員選挙」が行われ、7名の役員が決定しました。その全員が部活動と両立して活動しています。忙しい日々を過ごす彼らの活動について顧問の鈴木貴人先生に直撃しました。

突然ですが、本校生の望みって何でしょうか。「学食のメニューを増やしてほしい」、「部活動の種類を増やしてほしい」、「そんな望みの一つに、「先輩がほしい」もあるのではないのでしょうか?まだ1年生ながら背伸びをしつつ、委員長や部長を務める、代表して取材を受ける、責任ある立場にいるのは想像以上に大変だと思いませんか。

生徒会では、あと1年で休校になる双葉、双葉翔陽、富岡、浪江、浪江津島の先輩方と夏休みから経験を深めてきました。関係が深まるにつれ、双方の生徒から「一緒に何か行事を行い、双葉郡の復興の支えになりたい」という願望が自然と湧き上がってきました。そこで、避難指示が解除されたばかりの楢葉町

「ナルグッズの販売」を行うことを決め、忙しい日々の僅かなスキを縫うように準備を重ねました。生徒自ら手紙を出して、「元・ジャイアンツ宮本投手などへ出演依頼をしたり、グッズのアイデアを出し合ったり、実務的なことは高校生が担いました。

イベント前日、ようやく納入されたTシャツを一枚一枚袋詰めし、すでに日も暮れた中、先生方に学校紹介のプレゼンを見ていただくことになりました。忙しい中で準備をしたことは先生方も理解しています。しかし、自信のなさ

が生徒の表情に表れ、案の定終わった後には申し訳ない思いが飛びました。中でも特に奮っていたのは「身内受け」になっている」という一言でした。それまでどこか「自分たちが楽しければいい」と照れ隠してふざける雰囲気があったのです。

発表は明日に迫っています。ところが、その状況下でも皆諦めませんでした。再度発表のプラッシュアップを図り、観客に本校の様子もつと伝わるようにと手書きのイラストを入れた学校案内も作成しました。

迎えた本番当日。生徒たちは初めての経験で、来場者に自ら声をかけることに気後れし、来場者の多くは有名な人のステージに注目します。現実には100点満点とはいきませんでした。しかし、この経験が双葉祭の成功に繋がります。「自分たちが楽しければいい」に「来てくれた人を楽しんでもらう」という視点が増えました。

## P.T.A 活動報告

### 総務委員会

4月26日(日)に役員会と総会を開催することができ、本校としての会の活動がスタートいたしました。本委員会としては5月20日(水)に相双地区高P連総会、6月4日(水)に県高P連総会、6月25日(水)に相双地区高P連第1回専門委員会、11月18日(水)に地区高P連研修会にそれぞれ出席いたしました。それぞれの学校の現状と取り組み内容が報告され、参考になるものも数多くありました。中でも必ず話題に上がるのは生徒数の減少についてです。こればかりは我々ではどうしようもない事情ですが、高P連として各甲Pでの活動の支援などを定め、今後のあり方や運営についても見直す時期に来ているとの共通認識を持ちました。

### 進路対策委員会

8月9日(日)、生徒7名、保護者2名で福島大学のオープンキャンパスに参加してきました。国内外の様々な研修の合同だったため、大勢での参加とはいきませんが、明るく開放的なキャンパスのもと、初めての本格的な大学見学を存分に楽しむことができてきました。中でも「ふくしま未来学」企画のミニシンポジウムでは、社会学者の開沼博先生のワークショップが行われ、福島島の「本場の今」の一端を知る貴重な経験を積むことができました。進学するためには、上級学校がどんな所なのか早く知ることがとても大切です。たくさんの方に足を運ぶ機会を積極的に作って、自分の将来を考えるきっかけにしてほしいと思います。



### 調査広報委員会

日(月)、10月2日(金)に本校でも保護者と合同の登校指導を行い、健全育成委員をはじめとする保護者の方にご参加いただきました。自ら進んで挨拶をし、正しい制服の着こなしをするこは、将来望ましい社会人となる上で身につけておくべき基本的なマナーです。また、交通事故防止に向けて、交通ルールを遵守することも重要です。登校指導は、生徒にこれらの意識やマナーを向上させる指導の場であるとともに、保護者の方にも生徒の普段の様子を見ていただく数少ない機会でもあります。次年度もどうぞよろしくお願いたします。



### 健全育成委員会

県下一斉登校指導の時期に合わせ、6月1



本校初の広報紙を作成するにあたり、楽しみと不安がありました。学校生活の様子が遠方にいる御家族に少しでも伝わればと思い作成しました。仕上がりには満足していましたが、何と第一号紙を「広報紙コンクール」に出品することに、「入賞は無理」と思いましたが、各校優勝の結果は、何と三位入賞となり代表として選出されたのです。正直驚きでしたが、本校に世間が注目していることを強く感じました。次年度もまた、よりよい広報紙作成を目指していきます。